

令和3年度 第1回成田市男女共同参画計画推進懇話会 会議概要

1. 開催日時

令和3年5月7日（金） 13:30～15:00

2. 開催場所

成田市花崎町760番地
成田市役所3階 第二応接室

3. 出席者

（委員）

相川委員、甲斐委員、小川委員、宮崎委員、石渡委員、石井委員、
大貫委員、伊藤委員、篠塚委員、小川委員、廣田委員、内田委員
土谷委員、綿貫委員、

（欠席者）

蕨委員、関口委員

（成田市）

谷平市民生活部長、内田市民協働課長、菅澤市民協働課男女共同参画係長、
竹内市民協働課主任主事
業務委託事業者：株式会社サーベイリサーチセンター

4. 議題

- （1）第4次成田市男女共同参画計画（最終案）について
- （2）その他

5. 議事(要旨)

- ・第4次成田市男女共同参画計画（最終案）について、前回から修正、変更した個所を事務局から説明を行った。
- ・その他、最終的な計画策定に至る今後のスケジュールを説明した。

6. 質疑等

主な質問・意見は以下のとおり

（1）第4次成田市男女共同参画計画（最終案）について

綿貫委員：アンケートの回答者数「女性、男性、どちらともいえない」の合計数が全体数と合わないのはなぜか。

市 : アンケートを実施したものの、回答のなかった項目については不具合となっている。

綿貫委員 : 中学生アンケート調査で、部活動のとき「平等でない」とは、具体的に部活動で女性優遇とはどのような状況か？

市 : 具体的な内容を記載する設問ではないため不明である。

綿貫委員 : アンケートの回答で「どちらともいえない」と「どちらともいえない、または答えたくない」の違いは何か？

市 : スペースの関係で一部省略したが、統一する予定である。

綿貫委員 : ファミリーサポート事業とはどのような事業か。

市 : 子育てを助けてほしい方と助けたい方の双方の援助活動である。

綿貫委員 : P.9 帯グラフよりも人口ピラミッドで表してはどうか。つぼ型になり、より危機感がある。

市 : スペース、ページ数の調整もあり、検討する。

綿貫委員 : P.10 成田市の出生率について「1.18 人」は打破することが課題であり、2.1 人に満たないと人口は自然現象していく。

市 : 出生率の減少について、問題として認識している。

綿貫委員 : P.19 アンケート問 20 について、ポジティブアクションは企業が主体となることなので、企業にアンケートをとるといいのではないか。

市 : 事業所調査としてアンケート調査を実施している。

綿貫委員 : P.21 アンケート問 16 の DV に関して男女別でアンケートをとればどうか。

市 : 男女別でアンケートをとったが、ページの都合上男女まとめて掲載した。

綿貫委員 : P.47 No.32「児童虐待を防ぐための体制整備」はヤング・ケアラーの問題もあり子育て支援課のみでなく、教育指導課も取り組むべき問題ではないか。

市 : 福祉の問題でもあり、担当課と調整していきたい。

綿貫委員 : 用語集に市長も発言している「イクボス」を加えてほしい。

市 : ご意見を元に「イクボス宣言」について検討していく。

綿貫委員 : P.22「一時離職することがないよう」とは仕事を継続しなくてはいけないのか。女性は仕事を継続しなくてはいけないのか。

市 : 家庭に入る選択肢がないように誤解されてしまうので、表現方法を検討する。

土谷委員 : P.22①女性の活躍について、女性が職場で活躍できていないという前提があり、子供を産むと女性が辞めざるを得ない、辞めることが暗黙の了解になっている現状を打破しなくてはいけない。

小川委員 : P.19 アンケート問 9 36.4%の女性が仕事を一時辞めても子どもが大きくなったら再び仕事をしたい続けたいと思っており M 字カーブになっている。P.22 就業を継続したい人ばかりではない。

市 : P.22 の表現は女性が仕事を辞めてはいけないという主旨ではない。

- 大貫委員：出生率「2.1人」に満たないと人口は減少することを P.10 に注釈として載せてはどうか？
- 市：グラフとして載せるか文言を加えるか検討する
- 土谷委員：パブリックコメントがなかったことに対し、潜在的にはジェンダー平等が進まないことに意見・不満を持っている人がいるはずなので、当事者の声をもっと引き出す方法はないか。
- 市：「男女共同参画」という言葉が固く、分かりづらいというイメージがあるので、その意識を変える啓蒙活動をしていきたい。
- 小川委員：P.52 リプロダクティブ・ヘルス/ライツと出生率の減少は整合性がないのでは。女性の意思で産む、産まないを選択する権利ではないか。
- 土谷委員：リプロダクティブ・ヘルス/ライツとは望まない妊娠をした女性の心身を守る権利であり、出生率とは別に考える問題だと思う。
- 綿貫委員：リプロダクティブ・ヘルス/ライツは世界的問題であり、自分の人生は自分で選択する SDGs に繋がっているものである。

7. 傍聴

1名